

# 漢方と現代病 1



中国漢方医師  
医学博士  
侯 殿昌 先生

1963年中国山東省生まれ。85年中国維坊医学院臨床医療学部卒業。94年東北大学医学部留学。99年同大学院にて医学博士号を取得。専門：難病、がんの漢方治療。現在、国際伝統現代結合腫瘍学会(SIO)会員、日本統合医療学会(JIM)会員、日本東洋医学会会員、日本小児東洋医学会会員。

懐仁堂漢方薬局 福島店  
<http://www.kaijindou.com/>

- 住 所 福島市万世町2-8 P/有り
- 電 話 024-526-2581
- 相 談 日 【要予約】  
毎週月曜日、水曜日  
AM10:00~PM6:00
- 営業時間 日曜日、祝日
- 定 休 日 ☎022-718-5858
- 仙 台 店 ☎023-632-8007
- 山 形 店

はじめまして。懐仁堂漢方薬局の侯殿昌です。中国の一医療人として、これから3回に分けて漢方についてお話させていただきます。今回は、がんと漢方についてです。

## 三大がん治療法との併用

## 「抗がん力」を高める漢方

昨今、高倉健さんや川島なお美さんから、著名人ががんで亡くなるニュースが相次ぎ、改めてがん治療への関心が高まっています。

三大がん治療法（手術・化学療法・放射線治療）は、どの治療法もがんのみに対しての治療法で、食欲や体力、免疫力などは高まりません。実は、がんと闘う力は自分自身の生命力の体力、免疫力、胃腸機能、内臓機能、造血機能の「抗がん力」なのです。

## 漢方では

## 「扶正祛邪（きよせいか）」が基本

がんは、新しい病気ではありません。漢の時代の漢方古典「黄帝内経」に腫



瘤（しゅりゅう）良性と悪性の腫瘍の症状や分類、治療などの記録があり、また、がんの漢字「癌」は800年前に作られました。がんの漢方治療は「扶正祛邪（ふせいきよせいか）」が基本です。「扶正」は体力、免疫力、胃腸機能、造血機能、内臓機能を指す「正气」を高める、すなわち「抗がん力」を高めることで、「祛邪」は腫瘍やがん細胞を指す「邪物」を除くことです。

中国では、がん治療に三大治療と「抗がん力」を高める漢方薬の併用を実施して高い効果を得ています。例えば、上海復旦大附属がんセンターでは、日本やアメリカで末期すい臓がんの平均生存率が5〜6か月に対し、漢方薬との併用により生存実績は平均11か月、中

には5年以上の生存者も多数います。日本でもジャーナリストの鳥越俊太郎さんは4回がん手術を受けましたが、がん発見以来ずっと漢方薬を併用し、驚くほど早く回復して仕事にも復帰できました。

また、徳島大の研究では、進行性子宮頸がんの抗がん剤治療と漢方薬を併用した患者さんの15年後の生存率が16・7%に対し、抗がん剤だけの患者さんは2%と、8倍以上の差です。

## 早めの漢方併用を！

私の薬局にほぼ毎日、がんの患者さんが相談に来ますが、残念ながらほとんどの方が再発や転移を繰り返し、治療方法がないと言われています。

抗がん剤治療や放射線治療の前に、早めに「抗がん力」を高める漢方薬を併用することが一番大事です。抗がん力を高めれば、がんの再発や転移予防、進行遅延と抗がん剤効果を高め、同時に吐き気や食欲不振、白血球減少など様々な化学療法・放射線治療の副作用を軽減させることができます。